

沖縄県における自然再生士

有限会社ナカムラ造園土木／自然再生士 仲村 弘喜

自然再生士の啓発

私は、沖縄県の中でも自然が多く残っている北部地域、いわゆる「やんばる」と呼ばれる地域で造園業を営んでいます。私の住んでいる場所は北部地域への入り口にあたり、奥深い自然が残っている奥やんばる地域とは、自然の形態が違います。それでも、中部や南部に比べると、まだまだ自然が残っている地域です。私は40数年前に上京し、20年近く東京で植木職人として働き、その後沖縄に戻りました。現在、私が上京する前に見られた、地域の里地里山の面影は残っていません。それは、沖縄が祖国復帰後、農地開発事業の農地土地改良により畑地が整備され、いろいろな利便さを享受したものの、同時に、昔見られた里地里山の風景が失われたためです。昔の風景を知っている一人としては、寂しさを感じるころでもあります。

このような状況で、造園業に携わりながら、以前から取得したいと思っていた樹木医資格の認定を受け、その後に自然再生士の資格を知り、自然再生士特別認定講習会を受講して、こちらも資格認定のはこびとなりました。今後は、樹木医、自然再生士の資格を生かし、緑化、景観づくりに取り組んでいきたいと思っていたのですが、自然再生士として関わる仕事も少なく、自然再生士に対する認知度、自然再生に対する認識がまだまだだと感じているころでもあります。

逆の言い方をすれば、身近に自然が多く残っているため、自然あるいは環境の変化等をあまり意識していないのかもしれませんが。私は職業柄、自然に接したり、風景を見て感じたりしながら、一部ではありますが、少しずつ変化する自然、あるいは景観を感じています。

そのような中、平成27年に県の環境部に環境再生課が設置、沖縄県自然環境再生指針が策定され、現在、自然環境再生モデル事業を実施しています。まだ新しい

部署であり、今後は自然再生事業も行い、自然再生士の認識、自然再生の啓発も重要になるものと期待しています。

また、県内において自然再生士の認定者が増え、ネットワークが構築できれば、地域、あるいは子どもたちと一緒に自然再生士としての活動の幅を広げ、同時に、身近な自然を再確認してもらえるように、自然再生士として啓発活動ができればと思っています。

業務としての自然再生士

私は、4年前から北部やんばるの、ダムへの植栽に携わっています。やんばるにはダムが9つあります。自然豊かなやんばる国立公園内のダム、米軍基地に隣接するダム、住宅地に近いダムもあり、それぞれ立地が異なります。人工構造物であるダムが、景観的にも環境的にも立地場所になじむように、周辺の環境や地域景観と調和する植栽、地域種に即した植栽を行うことにより、自然と一体となるような環境整備を行っているものと思います。

ダムによっては、周辺の自然が手つかずの状態の所もあり、特別天然記念物のノグチゲラの鳴き声が聞こえたり、天然記念物のヤンバルクイナが目の前を横切ったりします。ヤンバルクイナを直に見ると感動します。また、ほかの貴重種を見る機会もあり、このような現場、あるいは自然豊かなやんばるの森と接して、生物多様性の豊かさを感じた時に、自然環境の再生が必要なのかと、相反することを思ったりします。それだけ、ダム周辺の自然が豊かだということです。

だからこそ、ダム周辺につくられたビオトープ、湿地、せせらぎ、魚道等や周辺環境に即した植栽樹木に、貴重な生きものが自然な形で生息・生育し、その環境を保全・維持できるように、自然再生士としての意識をもって取り組みたいと思います。

やんばるの森の力

沖縄では、先の大戦で焦土化した土地を早く緑化するため、米軍により生育の早いギンネムが導入されたといわれています。いまでは、沖縄全域にみられる重点対策外来種となっています。

奥やんばるに行くようになってから感じたのですが、山深いやんばる地域の一部で、ギンネムが侵入していない所も見られます。ギンネムは裸地があるとすぐに入り込んで繁茂します。ギンネムが生育しない要因はさまざまなことが考えられると思います。運ばれて来た種子が発芽できないのも、ひとつの要因だと思います。最初、この状態を見た時、森全体にアレロパシー効果があるのではと思うくらいでした。やはり、やんばるの自然の豊かさの象徴でもあると思います。今、外来植物が問題になっている中で、ギンネムのない環境はとても貴重です。侵入を防ぐことも大事ですので、その方

策も考え、意識もしながら、自然豊かなやんばるに関わる自然再生士として、今後も知識を広げたいと思います。



写真 やんばるの森